

令和9年産みえの麦生産改善技術情報 第1報

多収・高品質な麦生産への第1歩！

赤かび病対策のため、**作物残渣のすき込みを徹底**しましょう！

赤かび病の発生が増加、DON 値が高い傾向にあります！

- ・近年、**三重県では**赤かび病の発生が増加し、収穫物の**かび毒（DON：デオキシノバレノール）値が高い傾向**にあります。
- ・赤かび病に罹病した麦は、粒が細くなり減収につながります。
- ・また、赤かび病菌が産生する DON は、人体に悪影響をおよぼすため、食品衛生法により基準値（1.0mg/kg）を超えた麦は、**食用として流通することができません**。
- ・開花始期から 10 日間程度の間が最も感染しやすく、この期間に降雨が続き、気温が高くなると発生が多くなります。



まずは、作物残渣のすき込み徹底を！

- ・赤かび病の**第1次伝染源は、土壌表面の作物残渣に形成される“子のう殻”**です。
- ・子のう殻中の**胞子が飛散して麦の穂に感染**します。
- ・赤かび病菌は、**イネ科の作物**（稲、麦、トウモロコシ）や**雑草に多く寄生**する性質があります。
- ・このため、前作の**残渣や雑草の適切な処理により伝染源の密度を低下させる**ことが重要です。
- ・稲わら等、**残渣の圃場外への搬出または確実な土中へのすき込み**を徹底してください。

※アップカットロータリーを使用すると、残渣を効率よく地中に墾することが可能です。

※開花始期以降の、薬剤による複数回防除も必要です。

稲わら残渣に形成された 子のう殻



子のう殻（拡大）



排水対策も忘れずに！

- ・排水対策が不十分なほ場では、湿害による生育不良に加え、赤かび病の発生が助長されます。
- ・排水対策として、周囲溝に加え、圃場内明渠の設置、排水溝への連結を徹底してください。

